



日時 平成29年7月4日(火) 13:30~16:30
テーマ 通常の学級に活かせる通級指導と連携事例① ~課題を見つけ、事例から学ぶ~
講師 びわこ学院大学 教授 藤井 茂樹 氏 亀岡市立詳徳小学校 教諭 田端 順子 氏



SSC 公開講座 201「通常の学級に活かせる通級指導と連携事例」の連続講座の①~課題を見つけ、事例から学ぶ~の講座を京都府スーパーサポートセンターで開催しました。亀岡市立詳徳小学校の通級指導教室担当の田端順子先生による実践発表とびわこ学院大学教授の藤井茂樹先生の御講演の講座で、小中等学校、特別支援学校より24名の先生方が受講しました。

田端先生の実践報告では、自校通級と他校通級の事例を報告され、先生の経験からそれぞれの良さや難しさについて、まとめていただきました。その中で見えてきた連携の課題をどう解決していくのか、連携のツールや方法を具体的に御提示いただきました。また、連携のために心がけていることを熱く語っていただきました。空き時間ができるとう校舎内を歩いていると言われていたのですが、校舎内を歩いている田端先生の姿が目につきました。最後に前向きな姿勢で今後に向けて何をしたいのか、語っていただきました。うまくいかない時には、「担任の気持ちになって考え、自分だったらどうするか想像してみる」とおっしゃっていました。通級指導教室担当として、担任との連携を進めたいという田端先生の真摯な取組の報告をしていただきました。

藤井先生の講演では、初めに、京都府の通級指導教室の歴史を教えてください、改めて先輩の方々の功績を痛感しました。通級指導を考える前提として、特別支援教育の「多様な学びの連続性」から通級指導教室を考えないといけないこと、そのためには、子どものアセスメントを行い実態把握が必要であることを述べられました。目の前の子どもにどう対応し、どのようなツールが必要であるかを考えることが大切である、授業の中で子どもを変えることをチームで考えることが重要であると力説されました。特別支援教育体制の中での通級の指導を行うためには、「個別の指導計画」が重要で、各学校で子どもに何ができるのかをはっきりさせなければならない。通級指導教室では、障害に応じた特別の指導つまり、障害による学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とした「自立活動の相当する内容」を指導しなければならないと述べられました。通級による指導の対象となる児童生徒は、医学的診断の有無のみにとらわれず、総合的な見地から学校が自分たちの判断で決めるべきだということともあわせ、藤井先生の「目の前の子どものことは、教師が考えなければならない」の言葉が心に残りました。



「通常の学級との連携」について、個々の教師との連携は通級指導教室担当者が行うのではなく、特別支援教育コーディネーターを通じて連携することが大切であると、学校がチームで対応することを再度述べられました。

また、保護者とどう連携をしていくのかは、鍵になる。保護者、在籍学級担任、通級指導教室担当者の3者で一つの連絡帳を活用し、学級と家庭、通級指導教室で情報を共有し連携することが大切であるとおっしゃいました。最後に「本人と困りについて作戦を立てる」ために、子どもも親もいつ自分を知ること、障害を受容すること、メタ認知を形成することの必要性を述べられました。

<参加者アンケートより感想> (一部抜粋)

- ・形にこだわらない連携のあり方、子どもを中心に考えた連携のあり方について再考できる機会になった。
- ・学校教育の中で子どもの成長・発達・学習保障をどう考えるかということを考えさせられた時間だった。
- ・実践発表は、先生の熱意や暖かなまなざしが感じられた。連携のポイントが分かり、何かしたいと思えた。
- ・次回11月14日に向けてできる範囲で実践していこうと思う。
- ・「失敗したら何が悪かったのか、何が足りなかったのかを探ることが大切、それが子どものためになる」の言葉は本当にそうです。明日から一歩踏み出してみます。

7・8月の公開講座は、夏のSSCだよりでお知らせしています。奮ってご参加ください。